



## 新年を迎えて

理事長 三村 明夫  
(日本製鉄㈱名誉会長)



明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、良き新年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

去年は感染状況に十分留意しつつ、アイアン・クラブ主催行事の一部を開催することが出来ました。私も12月に清澄ゴルフ倶楽部にて行われましたゴルフ大会へ参加いたしました。顔を合わせて親睦を深めるこうした機会は大変有意義なものであることを改めて実感いたしました。

足元の鉄鋼業について述べますと、原材料価格の高騰や急激な円安の進行等、非常に厳しい事業環境が継続しております。これに加え、将来的な脱炭素化の実現に向けた各国の研究開発も加速しており、今後の業界の趨勢を決する極めて重要なターニングポイントに差し掛かっている状況にあります。石炭還元に頼らない超革新的生産プロセスの開発、カーボンフリー電源の確保等、脱炭素化に向けて今後クリアせねばならないハードルドは多々ございますが、産・官・学の総力を結集の上、これら課題への対応が進むことを願っております。

昨年を振り返りますと、ロシアのウクライナ侵攻により世界中が混乱に陥った一年であったと言えます。我が国も例外ではなく、国家安全保障、エネルギー安全保障、食料安全保障等、日本が直面している様々なリスクを国民一人ひとりが改めて再認識することとなりました。とりわけエネルギー問題は、資源小国、且つ国際的な送電網を持たない我が国にとって喫緊の政策課題です。昨年政府はGX実行会議において、原子力発電所の再稼働の加速化や、運転期間の延長、次世代革新炉の開発等について打ち出しましたが、安定・安価なベースロード電源として原子力を再活用する方策がようやく提示されたことは、我々産業界としては大変歓迎すべきことであります。エネルギー問題のみならず、我が国を取り巻く様々な課題についても、目の前の現実を直視した国民的な議論が今後進展することを期待したいと思います。

さて、アイアン・クラブは、鉄鋼という一つの業種で、川上から川下までサプライチェーン全般に関わる多くの企業のOBと現役が参加する自主独立の組織であり、オール鉄鋼人の会として、人と人とのつながりを提供し、OB生活、現役生活を豊かにする場と言えます。コロナ禍で活動は一定程度縮小せざるを得なくなりましたが、昨年ようやく、徐々に活動を

再開し、アイアン・クラブの中核事業である講演会は、オンライン形式、ハイブリット形式で、昨年は14回を数えることができました。また、秋には五島列島への旅行、音楽鑑賞、歌舞伎鑑賞、宝塚鑑賞、さらにはゴルフ会と、活動する事業が増えてきたことは、大変喜ばしいことです。

これらに加え、ポスト・コロナのアイアン・クラブの活動活性化に向け、プロジェクトチームの提言を受けて、会員勧誘を進めることや新たな企画にチャレンジすることにしておりますが、会員としては、現役世代を中心に約90名の新しい仲間を迎えることができました。また、新たな事業としては65歳以下の会員を対象に、Monday Forumをスタートさせ、多くの方に参加いただいております。引き続き会員の皆さまと共に「よく学び・よく遊び・親しい仲間と対話する」活力溢れるアイアン・クラブを作って参りたいと思いますので、皆さまの一層のご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆さまの益々のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。